

(一財) 日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟

第 20 回
東奥日報社杯争奪
青森県大会



第 24 回
青森県支部大会

期 日 2019年4月20日(土)・21(日) (予備日なし)

会 場 アップル球場・つがる克雪ドーム

主 催 (一財) 日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟 青森県支部

共 催 東奥日報社

主 管 (一財) 日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟 青森県支部

第 20 回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第 24 回青森県支部大会開催要項

1. 名 称 第 20 回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第 24 回青森県支部大会
2. 主 催 (一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟青森県支部
大会長 支部長 柳町 誠也
- 共 催 東奥日報社
3. 主 管 (一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟青森県支部
4. 大会事務局 (一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟青森県支部
弘前聖愛リトルシニア 事務局長 丸岡功樹
〒036-8144 青森県弘前市大字原ヶ平字山元 112-21
電話 090-7336-6664 Eメール: hirosakiseiai@littlesenior-tohoku.net
5. 期 日 2019 年 4 月 20 日 (土)、21 日 (日) (予備日設定なし)
6. 会 場 4 月 20 日 (土) アップル球場、つがる克雪ドーム
4 月 21 日 (日) アップル球場、つがる克雪ドーム
7. 参加チーム (一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟青森県支部 8 チーム
8. 競 技 規 則 (1) 2019 年公認野球規則並びに大会運営要綱及び特別競技規則による
および競技方法 (2) チーム編成 選手 25 名、監督 1 名、コーチ 2 名、スワッチャー 1 名、計 29 名
(3) 競技方法 別紙組み合わせを参照のこと
(4) 組み合わせ 別紙参照のこと
9. 表 彰 優勝 (優勝カップ、優勝メダル、賞状) 準優勝 (準優勝メダル、賞状)、
第 3 位 (賞状)、最優秀選手賞 優秀選手賞
10. 受 付 4 月 20 日 (土) 7:30 アップル球場バックネット裏
11. 監督,事務局長 4 月 20 日 (土) 7:45 アップル球場バックネット裏
女性部長会議 監督、事務局長、女性部長の合同会議として実施
12. 審判部会議 4 月 20 日 (土) 7:45 アップル球場バックネット裏
県支部審判部長、同副審判部長、参加各チーム審判員により実施
13. 開 会 式 2019 年 4 月 20 日 (土) 8:20~ アップル球場
14. 閉 会 式 2019 年 4 月 21 日 (日) 決勝戦終了後 アップル球場
決勝戦終了後、優勝、準優勝チームを対象として行う
第 3 位の表彰は第 3 位決定戦後大会本部にて賞状を伝達する
15. 選 手 登 録 2019 年 3 月 31 日 (日) まで東北連盟指定様式 (大会用) を大会主管事務局
青森山田リトルシニア 事務局 高橋まで aomoriyamada@littlesenior-tohoku.net
データで提出のこと
16. 審判員登録 各チーム 2 名以上登録。東北連盟様式にて主管事務局までデータ提出のこと
17. 球 場 管 理 大会主管チーム及び大会主管事務局から依頼された、チームの協力のもとに実施する
18. 参 加 費 各チーム 15,000 円 4 月 20 日 (土) 受付時に納入のこと
19. そ の 他 (1) 試合球、投手用ロージンバックは、大会事務局が準備する
(2) 球場管理チームは、青森県支部四役のいずれかから依頼されたチームが行う
(3) 優勝チームには Matudaball Champion Ship2019 全国選抜野球大会の出場権を与える。

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会 第24回青森県支部大会組み合わせ

			4月20日	4月21日		
A	藤崎桜城	1	①アップル	③アップル	①アップル 12:00	優勝
A	青森山田	2	9:30			
B	三沢	3	②アップル	14:30		
B	八戸東	4	12:00			
C	弘前	5	①つがる	③つがる		
C	弘前聖愛	6	10:30			
D	弘前白神	7	②つがる	15:30		
D	青森戸山	⑧	13:00			

※選手宣誓は青森戸山チーム

③	準決勝 アップル球場敗者	①アップル 9:30	4月21日 3位決定戦
③	準決勝 つがるドーム敗者		

	A の 敗 者	つがる9:30	交流戦
	B の 敗 者		
	C の 敗 者	つがる12:00	交流戦
	D の 敗 者		

※4/21交流戦については当該チームで調整

アップル球場 南津軽郡藤崎町藤崎高瀬付近

つがる克雪ドーム 五所川原市大字唐笠柳字藤巻495-2

(様式5)

藤崎桜城チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ベンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	兜森 浩聖	青森県北津軽郡板柳町灰沼東		○/○	080-6050-9997
コーチ 40番	海老名 晋弥	青森県黒石市黒石十三森		○/○	090-4889-6279
コーチ 50番	岩館 悠大	弘前市大町3丁目10-3大町		○/○	080-6295-4816
コーチ 60番				/	
コーチ 70番				/	
スコアラー	山田 寿美子	-		-	-

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	2	福士 開翔	ふくし かいと	黒石中	173	56		
2	2	成田 龍樹	なりた たつき	黒石中	168	49		
3	3	東 奏志	あすま そうし	明徳中	168	72		
4	3	村上 修太	むらかみ しゅうた	藤崎中	163	52		
5	3	相馬 史明	そうま しみあき	弘前二中	165	66		
6	3	羽場 旭	はば あさひ	弘前一中	175	60		
⑦	3	角田 楓斗	かくた ふうと	弘前一中	173	60		
8	2	村上 蒼空	むらかみ そら	黒石中	166	55		
9	3	山田 蔵人	やまだ くらと	新城中	180	62		
10	2	川崎 崇斗	かわさき しゅうと	田舎館中	175	69		
11	2	木村 駿斗	きむら しゅんと	北辰中	160	53		
12	2	津川 愛緒	つがわ なお	中郷中	166	55		
13	2	柏崎 真光	かしわざき まひろ	中郷中	158	65		
14	2	福士 權斗	ふくし かいと	弘前一中	155	40		
15	2	大山 凜太郎	おおやま りんたろう	板柳中	151	45		
16	2	山形 優都	やまがた ゆうと	黒石中	154	55		
17	2	葛西 和輝	かさい かずき	弘前二中	172	59		
18	2	鳴海 拳太	なるみ けんた	北辰中	167	51		
19	1	鶴田 亜廉	つるた あれん	船沢中	160	58		
20	1	齋藤 悠斗	さいとう はると	鶴田中	146	39		
21	1	十文字 旺介	じゅうもんじ おうすけ	弘前三中	148	38		
22	1	中村 陽康	なかむら ようこう	五所川原一中	163	52		
23	1	佐藤 光星	さとう こうせい	中郷中	155	57		
24	1	種市 朔良	たねいち さら	黒石中	144	44		
25	1	米村 琉希	よねむら りゅうき	明徳中	162	53		
26								*スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者: 羽場 優藏	職名 事務局長	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意 大会期間中常時携帯
携帯: 090 (3123) 2245		/			

東北連盟 青森県支部					
支部長 柳町 誠也 殿	藤崎桜城チーム	申請者 登録者	会 長 事務局長 携帯番号	相馬 善英 羽場 優藏	090 (3123) 2245

(様式5)

青森山田チーム

事務局長印

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ハンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	中條 純	青森市青葉3丁目13番地		○/○	090-6952-3723
コーチ 40番	八戸 征人	青森市西滝2丁目8		○/○	017-766-9278
コーチ 50番	八戸 政耶	青森市西滝2丁目8		○/○	017-766-9278
コーチ 60番				/	
コーチ 70番				/	
スコアラー		-		-	-

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	木村 虎鉄	きむら こてつ	青森山田中	169	71		
2	3	佐々木 温斗	ささき はると	青森山田中	170	73		
3	3	齊藤 響	さいとう ひびき	青森山田中	180	83		
④	3	田沢 光	たざわ ひかる	青森山田中	165	55		
5	3	馬場 大河	ばば たいが	青森山田中	173	73		
6	3	對馬 蓮	つしま れん	青森山田中	161	55		
7	3	向中野 希星	むかいなかの ひかる	青森山田中	178	74		
8	3	佐々木 裕晟	ささき ゆうせい	青森山田中	168	63		
9	3	山村 陽	やまむら はる	青森山田中	173	74		
10	3	酒井 悠利	さかい ゆうり	青森山田中	170	75		
11	3	三浦 啓太郎	みうら けいたろう	青森山田中	164	63		
12	3	津嶋 大志	つしま だいし	青森山田中	165	71		
13	3	遠嶋 大夢	とおしま ひろむ	青森山田中	176	83		
14	3	久保田 晃士	くぼた こうし	青森山田中	156	49		
15	2	野村 祐	のむら ゆう	青森山田中	166	56		
16	3	新山 寛人	にいやま ともひと	青森山田中	162	55		
17	3	山崎 鷹亮	やまざき ようすけ	青森山田中	163	74		
18	3	工藤 寛斗	くどう ひろと	青森山田中	172	70		
19	3	外崎 和	とのさき やまと	青森山田中	165	59		
20	2	三浦 遼大	みうら りょうだい	青森山田中	166	58		
21	2	佐藤 千真	さとう かずま	青森山田中	170	63		
22	2	尾形 佳記	おがた かなる	青森山田中	168	69		
23	2	大賀 海斗	おおが かいと	青森山田中	159	57		
24	2	小堤 海人	こづつみ かいと	青森山田中	153	45		
25	2	木村 兜雅	きむら とうわ	青森山田中	156	55		
26	2	坂野 泰我	さかの たいが	青森山田中				

*スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者：職名 監督	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意 大会期間中常時携帯
氏名：中條 純 携帯：090(6952)3723	/			

東北連盟 青森県支部	青森山田チーム	申請者	会長	木村 雅大
支部長 柳町 誠也 殿		登録者	事務局長	高橋 善文
			携帯番号	090-1245-4137

(様式5)

三沢チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ベンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	門上 康人	青森県三沢市下久保3		○/○	090-1937-8617
コーチ 40番	助川 勝利	青森県三沢市美野原1		○/○	090-3128-9342
コーチ 50番	高橋 俊一	青森県三沢市堀口17		○/○	090-6682-3814
コーチ 60番	風穴 康貴	青森県八戸市市川町下大谷地32-11		○/○	080-1826-7361
コーチ 70番	館岡 昭弘	青森県六戸町小松ヶ丘3-77		○/○	090-3364-4681
スコアラー	平船 謙仁	-		-	-

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	塩倉 拓実	しおくらたくみ	大野中	171	73		
2	3	織笠 陽多	おりかさようた	七百中	177	68		
3	3	廣谷 耕平	ひろたにこうへい	大野中	175	68		
4	3	長川 晃己	おさかわこうき	大野中	170	54		
5	2	中田 聖弥	なかたせいや	大野中	157	47		
⑥	3	砂 頼人	すならいと	大野中	162	64		
7	2	玉沢 煌成	たまざわこうせい	中野中	168	68		
8	3	松館 慶汰	まつだてけいた	野辺地中	173	65		
9	3	船見 翔那	ふなみしょうな	三沢一中	174	75		
10	3	長川 紘人	おさかわひろと	大野中	170	68		
11	2	久保 天空	くぼそら	木ノ下中	172	77		
12	2	坂下 崇晴	さかしたたかはる	宿戸中	160	50		
13	2	織笠 虎太郎	おりかさこたろう	木ノ下中	152	47		
14	2	風穴 大和	かざあなやまと	市川中	159	54		
15	2	白石 秀登	しろいししゅうと	木ノ下中	163	50		
16	2	伊藤 遥斗	いとうはると	七百中	159	45		
17	2	砂 柊平	すなしゅうへい	大野中	155	48		
18	2	齋藤 光晴	さいとうこうせい	天間林中	164	60		
19	2	小野 翔矢	おのしょうや	三沢一中	165	64		
20	2	吹越 海音	ふきこしみおん	木ノ下中	150	40		
21	2	庭瀬 詩音	にわせしおん	種市中	158	51		
22	2	平船 優月	たいらふねゆづき	大野中	168	83		
23								
24								
25								
26								・スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者: 千葉 伸宏 職名 事務局長	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意 大会期間中常時携帯
携帯: 090-4318-5570	/			

東北連盟 青森県支部 支部長 柳町 誠也 殿	三沢チーム	申請者 登録者	会長 事務局長 携帯番号	北向 直次 千葉 伸宏 090-4318-5570
	P.5			

(様式5)

八戸東チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ベンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	山辺 周平	三沢市三沢字下久保57-5		○/○	090-2886-7952
コーチ 40番	阿部 尚弥	八戸市白銀町字大沢片平6-40		○/○	080-2820-3172
コーチ 50番				/	
コーチ 60番				/	
コーチ 70番	田中 芳樹	八戸市湊高台4-18-2		○/○	090-6452-2042
スコアラー	成田 忍	—		—	—

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	長崎 楓雅	ながさき ふうが	市川中	183	77		
2	3	成田 壮良	なりた さら	七百中	167	60		
3	3	伊藤 丞太郎	いとう じょうたろう	八戸一中	174	74		
4	3	中村 和真	なかむら かずま	七百中	172	60		
⑤	3	舘 宥丞	たて ゆうすけ	百石中	173	93		
6	3	米倉 永寿	よねくら えいじゅ	上北中	173	60		
7	3	大道 星也	だいどう せいや	中野中	168	64		
8	3	谷地 宏太	やち こうた	市川中	165	54		
9	3	尾崎 丈陽	おざき たけはる	八戸一中	166	58		
10	3	清水 楓	しみず かえで	白山台中	171	56		
11	3	西野 航	にしの こう	鮫中	177	66		
12	3	山市 天河	やまいち てんが	田子中	175	76		
13	3	大西 碧	おおにし あお	長者中	166	72		
14	3	鈴木 優晟	すずき ゆうせい	市川中	164	53		
15	3	中田 翔瑠	なかた はる	鮫中	158	48		
16	2	藤谷 煌	ふじや ひかる	階上中	163	63		
17	2	村上 流聖	むらかみ りゅうせい	北陵中	162	59		
18	2	舘野 弘輝	たての こうき	東中	171	65		
19	2	後藤 澄空	ごとう そら	白銀南中	158	55		
20	2	中塚 瀬暉	なかつか らいき	湊中	160	50		
21	2	大平 翔琉	おおひら かける	三戸中	165	49		
22	1	長崎 煌雅	ながさき こうが	市川中	146	39		
23	1	真鍋 風舞	まなべ ふうま	田名部中	169	68		
24								
25								
26								・スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者：職名 事務局長	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意 大会期間中常時携帯
氏名：山市 幸大 携帯：090(7320)4468	/			

東北連盟 青森県支部 支部長 柳町 誠也 殿	八戸東チーム	申請者 登録者	会 長 事務局長 携帯番号	佐々木 悟 山市 幸大 090-7320-4468
	P.6			

(様式5)

弘前チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ベンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	一戸 孝俊	弘前市旭ヶ丘1-11		○/○	090-4888-8584
コーチ 40番	對馬 良次	弘前市大町3		○/○	090-3752-9027
コーチ 50番	尾崎 秀徳	弘前市千年4		○/○	090-2883-4792
コーチ 60番	齋藤 崇	黒石市ちとせ1丁目		○/○	090-9030-7464
コーチ 70番				/	
スコアラー	高田 恵美	黒石市二双子字十川		-	-

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	山田 毅	やまだ たける	弘前五中	172	63		
2	2	三上 陸	みかみ りく	黒石中	165	65		
3	3	尾崎 大和	おさき やまと	弘前南中	172	72		
④	3	五十嵐 喜郎	いがらし よしろう	弘大附属中	172	57		
5	3	谷淵 壮太	たにぶち そうた	弘前四中	173	50		
6	2	高嶋 叶夢	たかしま とむ	藤崎中	163	48		
7	2	山谷 俊太	やまや しゅんた	尾上中	163	55		
8	3	花田 惇暉	はなだ あつき	弘前五中	164	54		
9	3	高田 知希	たかだ ともき	中郷中	176	66		
10	3	齋藤 隼輝	さいとう しゅんき	中郷中	165	52		
11	2	清水 魁晟	しみず かいせい	蟹田中	163	50		
12	2	工藤 叶方	くどう かなた	大鰐中	155	53		
13	1	谷淵 瑛太	たにぶち えいた	弘前四中	158	44		
14	2	高井 結和	たかい ゆうわ	弘大附属中	161	45		
15	2	新谷 丈一郎	あらや じょういちろう	五所川原二中	152	54		
16	2	安藤 璃修	あんどう りしゅう	油川中	163	54		
17	2	木村 公哉	きむら こうや	弘前三中	155	47		
18	2	板垣 那柚	いたがき なゆ	弘前五中	161	47		
19	2	倉橋 諒太	くらはし りょうた	大鰐中	169	59		
20	2	工藤 流星	くどう りゅうせい	尾上中	160	45		
21	2	今井 秋景	いまい しゅうけい	平賀西中	154	40		
22	1	上山 郁翔	かみやま いくと	今別中	155	49		
23	1	佐藤 蒼子	さとう あこ	弘前東中	154	42		
24	1	田澤 凌仁	たざわ みなと	尾上中	166	47		
25								
26								・スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者：職名 事務局長	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意 大会期間中常時携帯
氏名：谷淵 孝太 携帯：090 (7668) 4514	/			

東北連盟 青森県支部 支部長 柳町 誠也 殿	弘前チーム	申請者 登録者	会長 事務局長 携帯番号	水木 厚美 谷淵 孝太 090 (7668) 4514
	P.7			

(様式5)

弘前聖愛チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

【指導者名簿】

	氏名	住所	ベンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	鳴海 光雄	弘前市広野1-15		○/○	090-2797-0896
コーチ 40番	葛西 英幸	南郡田舎館村川部中西田		○/○	090-2842-6356
コーチ 50番	今 宣孝	弘前市文京町5		○/○	090-7062-0199
コーチ 60番	根深 諒太	弘前市高田		○/○	080-1696-9525
コーチ 70番				/	
スコアラー		-		/	

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	津川 凱	つがわ かい	弘前南中	169	57		
2	2	下山 健太	しもやま けんた	弘前四中	177	72		
3	3	工藤 天晴	くどう てんせい	聖愛中	171	100		
4	2	宇野 琥太郎	うの ことろう	聖愛中	155	48		
5	3	工藤 遼大	くどう りょうた	弘前四中	171	61		
6	3	秋元 響	あきもと ひびき	弘前四中	166	65		
7	2	小田桐 弘武	おだぎり ひろむ	聖愛中	170	68		
8	2	菊池 成	きくち なり	大鰐中	165	58		
⑨	3	丸岡 昂太郎	まるおか こうたろう	聖愛中	176	62		
10	3	福田 虎太郎	ふくだ こうたろう	板柳中	173	76		
11	2	佐藤 幹太	さとう かんた	中郷中	164	56		
12	2	神 丈	じん じょう	聖愛中	171	67		
13	2	一戸 貴仁	いちのへ たかひと	弘附属中	176	67		
14	3	澤田 吏恩	さわだ りおん	弘前南中	160	56		
15	2	齋藤 琉偉	さいとう るい	聖愛中	160	57		
16	2	神 蓮虎	じん りとら	弘前南中	152	45		
17	3	佐藤 晴蔵	さとう はるくら	弘前南中	169	60		
18	2	寺田 圭汰	てらた けいた	五所川原第一	163	68		
19	2	千葉 俊輝	ちば しゅんき	弘前南中	167	64		
20	1	山田 雄大	やまだ ゆうだい	黒石中	164	69		
21	1	工藤 龍右	くどう りゅう	弘前二中	143	40		
22	1	佐藤 優晴	さとう ゆうせい	弘前南中	164	63		
23	2	中村 裕吾	なかむら ゆうご	聖愛中	156	56		
24	1	工藤 慎	くどう しん	弘前三中	153	49		
25	1	東海圭一郎	とうかい けいいちろう	弘前五中	161	47		
26								

・スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者：職名 総務部長	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意
氏名：丸岡 功樹 携帯：090(2603)0578	/			大会期間中常時携帯

東北連盟 青森県支部	弘前聖愛チーム	申請者	会長	椎名 啓祐
支部長 柳町 誠也 殿		登録者	事務局長	丸岡 功樹
			携帯番号	090-2603-0578

(様式5)

弘前白神チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会
用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ベンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	齋藤 和裕	西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字上富田18		○/○	090-2271-1706
コーチ 40番	須藤 善行	弘前市浜の町東1-10-11		○/○	080-2836-8812
コーチ 50番	白戸 明彦	弘前市門外一丁目18番地16		○/○	090-7567-5066
コーチ 60番	高谷 竜雅	南津軽郡藤崎町西豊田2-13-11		○/○	080-6055-8901
コーチ 70番	須藤 健也	弘前市浜の町東1-10-11		○/○	
スコアラー	小野 敦子	-		-	

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	津田 優希也	つだ ゆきや	中里中	161	58		
2	3	野呂 洋翔	のろ ひろと	木造中	178	82		
3	3	太田 雅斗	おおた まさと	木造中	170	66		
④	3	長谷川 翔音	はせがわ とうね	木造中	154	50		
5	3	小野 陽翔	おの はると	森田中	163	63		
6	2	新岡 歩輝	にいおか あゆき	木造中	165	48		
7	3	岩崎 了英	いわさき りょうえい	弘前四中	174	65		
8	3	新岡 真輝	にいおか まなき	木造中	163	50		
9	3	三上 晃羽	みかみ こうう	中里中	175	68		
10	2	大川 駿海	おおかわ みなみ	弘前四中	160	51		
11	2	中澤 昊哉	なかざわ こうや	相馬中	166	58		
12	2	工藤 秀太	くどう しゅうた	五所川原三中	163	55		
13	1	古川 海	こがわ あくあ	大戸瀬中	150	34		
14	1	高橋 佑輔	たかはし ゆうすけ	五所川原一中	160	44		
15	1	長谷川 諄和	はせがわ しゅうと	木造中	153	43		
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								

・スコアラーが中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者: 岩崎 隆 職名 事務局長

承認月日

担当役員印

責任審判員印

注意
大会期間中常時携帯

携帯: 090 (6227) 9048

/

東北連盟 青森県支部
支部長 柳町 誠也 殿

弘前白神チーム

申請者
登録者

会長
事務局長
携帯番号

生田 正勝
岩崎 隆
090 (6227) 9048

(様式5)

青森戸山チーム

第20回東奥日報社杯争奪青森県大会兼第24回青森県支部大会

大会用

【指導者名簿】

	氏名	住所	ハンチ	講習会/保険	電話(連絡先)
監督	渡邊 兼一	青森市大字大野字玉島36番地		○/○	080-1698-8843
コーチ 40番	阿保 英彦	青森市赤坂2-21-3		○/○	090-7335-6482
コーチ 50番	目代 廣幸	八戸市売市2-13-1		○/○	090-5996-8529
コーチ 60番	野坂 光生	青森市浪館前田3丁目25-28		○/○	090-2991-0992
コーチ 70番				/	
スコアラ-		-		-	-

【選手名簿】 (背番号はポジション順につけること) (主将は背番号を○で囲むこと)

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	カードの有無	選手動向
1	3	宮本 海嶺	みやもと かいりょう	佃中	176	63		
2	3	佐々木 亮太	ささき りょうた	新城中	168	60		
3	3	小田桐 快翼	おだぎり かいと	蟹田中	179	68		
4	3	柴田 守唯	しばた しゅい	小湊中	156	50		
5	3	榊 一晃	さかき かずあき	油川中	172	72		
⑥	3	阿保 亮達	あほ りょうたつ	戸山中	164	54		
7	3	嶋村 遥	しまむら はるか	戸山中	158	54		
8	3	五味 侑希	ごみ ゆうき	佃中	157	46		
9	3	須藤 廣尊	すとう こうじん	新城中	160	54		
10	3	山中 琥太郎	やまなか こうたろう	戸山中	159	53		
11	2	細川 晃友	ほそかわ こうすけ	小湊中	165	65		
12	3	佐々木 翔太	ささき しょうた	東平内中	178	68		
13	2	工藤 友喜	くどう ともき	浪打中	170	58		
14	2	長内 智哉	おさない ともや	佃中	162	56		
15	2	長尾 光太郎	ながお こうたろう	佃中	148	38		
16	2	野坂 亮真	のさか りょうま	西中	154	50		
17	2	大山 優哉	おおやま ゆうや	浦町中	158	55		
18	2	笹籠 海斗	ささだて かいと	筒井中	151	44		
19	2	山田 暖人	やまだ ひなと	浦町中	165	59		
20	3	石田 紳之佑	いした しんのすけ	明の星中	175	65		
21	2	高岡 亨輔	たかおか きょうすけ	南中	151	45		
22	1	菊池 凌空	きくち りく	古川中	150	41		
23	1	佐藤 音和	さとう とわ	新城中	163	78		
24	1	菊池 奏空	きくち そら	古川中	158	44		
25	1	三上 祥司	みかみ しょうじ	南中	154	47		
26								・スコアラ-が中学生(登録選手外)の場合はここに記入してください

【選手移動名簿】

背番号	学年	氏名	ふりがな	在学学校名	身長	体重	選手動向	カードの有無

引率責任者: 細川 太一 職名 事務局長	承認月日	担当役員印	責任審判員印	注意 大会期間中常時携帯
携帯: 090(3642)1349	/			

東北連盟 青森県支部 支部長 柳町 誠也 殿	青森戸山チーム	申請者 登録者	会 長 事務局長 携帯番号	渡邊 兼治 細川 太一 090(3642)1349
---------------------------	---------	------------	---------------------	---------------------------------

開 会 式

4月20日(土) 8:20

アップル球場

次 第

(選手整列)

1. 開式のことば
2. 優勝杯返還
3. 大会長あいさつ
4. 来賓あいさつ
5. 競技上の注意
6. 選手宣誓
7. 閉式のことば

(選手退場)

閉 会 式

4月21日(日) 決勝戦終了後

アップル球場

次 第

(選手整列)

1. 開式のことば
2. 成績発表
3. 表彰
4. 来賓挨拶
5. 大会長講評
6. 閉会宣言

(選手退場)

【グラウンド系の職務】

1. 割当ての前試合終了後直ちにグラウンドに集合すること
2. グラウンド整備を全員で行う。
3. ライン引きの補助を行う。
4. フィールディング終了後直ちに再整備を行う。
5. バッターボックス、ライン引きの補助を行う。
6. 審判員のボールの受け渡しを行う。
7. ファールボールの拾得整理を行う。
8. 次の試合のためのグラウンド整備を行う(前試合の両チーム)
9. 全員ヘルメットを着用する。
10. グラウンド系の割当ては各チーム共必ず行う。
(特別の理由により特に承認した場合を除く。)
11. バックネット裏に受付用のテーブル2 脚
12. ボールボーイ用椅子4 外野ボールボーイ2
13. 同点くじ(O×各9枚) 準備
14. 試合結果記入用紙(A3 サイズ)会場数分

《大会注意事項》

1. グラウンド整備は両チームで行うこと。各球場の最後のグラウンド整備は、最終試合の両チームが行なうこと。
2. 球場管理チームは、組合表を見て県支部が決めて依頼する。
3. 支部4役（正副支部長・正副事務局長）は球場責任者（事情による代替管理者指名は認める）を務める。
4. 試合進行のアナウンスおよび、試合中の審判団への給水は、対戦チームの女性部が行なうこと。
5. スコアボード、カウントシグナル担当として、対戦チームの2名ずつで行うこと。
6. 開会式は、全チームの会長・事務局長、審判員、監督・コーチの整列を基本とする
7. 閉会式は、優勝・準優勝チームの会長・事務局長、審判員、監督・コーチの整列を基本とする。
8. 3位表彰式においては、支部長・事務局長・当該チーム会長・事務局長・当該試合審判員・監督の整列を基本とする。
9. 開、閉会式に整列する支部役員は、支部帽子を着用しグラウンド内に整列をすること。
参加チームの選手は、マウンド付近に、監督、コーチは三塁側に、審判団は一塁側に整列すること。
10. 弁当の空き箱、ジュース缶、ビン、ゴミ等は、各チームで責任をもって処理すること。
11. 球場内での喫煙は、所定の場所を厳守すること。
12. 大会パンフレットは、受付の時に各チームに3部配布します。
それ以上必要な場合は、事前に配信されたデータを活用し各チームで準備してください。
13. 交流戦用の試合球は該当チームで準備する。
14. 各チーム登録審判員(2名以上)は、審判部会議参加し、該当試合に審判を務める。
15. 本部で特別な救護物品準備はしない。各チームの救護物品で対応し、対応できない場合は球場責任者が救急車を呼ぶ。あるいはチーム(保護者)が担当病院に連れて行く。
16. 大会主幹チームは、東奥日報社、支部四役、支部登録派遣審判員の弁当を準備する
17. 選手宣誓は、組合せ番号1のチームの主将が行う
18. 雨天の時は、決勝戦等、全試合消化できなかった場合は、別途、当該チームの日程を調整して実施する。
19. 予定時刻に不在及び登録書（選手カード含む）未提出にチームは不戦敗とする。
予定時刻とは、運営要項による
20. 控え審判記録員は、新聞掲載用のデータを記録する。
21. 全チーム電子ホイッスルを2個以上をもってファールボールの危険対策をお願いします。
また、試合該当チームは電子ホイッスルで警告するスタッフを配置してください。
22. 各チームで12秒ルール用ストップウォッチを1個以上準備してください

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計

バッテリー
本塁打
三塁打
二塁打

大会規程細則

一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟（以下「本連盟」という）の主催する大会すべての運営が、円滑に運ばれることを目的として、ここに大会規程細則（運営要項、特別競技規則）を定める。

各チームの指導者は、大会参加にあたり、本細則を熟読し、大会の運営に協力すること。

運営要項

（審判員、チーム編成、用具等）

- （１） 本連盟が主催する野球大会の審判編成は４人制とし、東北連盟所属審判団があたる（ナイター照明点灯時は外審を付ける）。
- （２） 本連盟が主催する野球大会に出場するチームは、必ず成人である責任者が引率し、大会中における選手のすべての行動、ならびに応援等に対し責任を持ち、チームを管理しなければならない。
- （３） 選手数が不足している（８人以下）２チーム以上の「合併チーム」あるいは近隣チームから選手を借り入れての「他チーム選手応援チーム」が本連盟の主催する野球大会に参加することを認める。詳細は日本リトルシニア中学硬式野球協会が定めた「選手不足による大会参加の特別措置について」を準用する。
- （４） 大会中、不慮の負傷、疾病に対して主催者（各球場大会本部）は、応急手当を施すがそれ以上の責任を負わない。
- （５） ユニフォーム、帽子、ストッキング、靴、スパイク、コートやヘルメット、グローブ、バット、キャッチャー用具、サングラスの使用などについては、別に定める「リトルシニア野球用具の使用規程」による。

（試合前手続き）

- （６） 本連盟が主催する野球大会に出場するチームの選手、監督、コーチは、必ず所定のワッペンを左肩口に付けた同一ユニフォーム（帽子、アンダーシャツ、靴下、ストッキング、靴、コートを含む）を着用し、選手の背番号は１～２５、監督は３０、コーチは４０、５０、６０、７０をつけること。
なお、ベンチに入らない登録コーチやその大会の登録選手以外の中学生がスコアラーとしてベンチに入る場合は、スコアラーの仕事のみを行うものとし、スポーティーな服装で入ること。
- （７） ベンチ内には、登録選手２５名以内と登録した監督、コーチ（登録４名のうち２名）、スコアラーの他は入れない。
チーム会長およびチーム事務局長はベンチに入ることはできない。
- （８） メンバー表の誤記については、「没収試合を避けるためのメンバー表誤記の取り扱いについて」による。
- （９） 監督が不在の時は、登録コーチが指揮を執り、その旨を当日試合開始前に各球場本部に口頭で伝える。スコアラーの変更も同様に口頭で伝えるものとする。

- (10) 第1試合のチームは開始予定時刻の60分前までに、第2試合以降のチームは開始予定時刻の90分前までに球場に到着し、審判部に「参加申込書、大会登録書」および「選手カード」を提出し、確認を受けること。
- なお、日本選手権東北大会はすでに開会式で点検を受けているので確認を受ける必要はない。役員または責任審判員は照査のうえサインまたは押印する。
- 上記の登録関係書類の確認は初戦のみとし、次戦以降はサインや押印された先の登録関係書類を常時携行し、役員、審判員の求めに応じ提出する。
- なお、選手の大会登録変更期限は、春季、秋季大会は、そのチーム初戦の登録関係書類の確認時間までとする。日本選手権東北大会のそれは開会式の受付終了時までとする。
- 登録選手に変更が生じ、その変更が役員や責任審判員に認められた場合は「参加申込書、大会登録書」の写しを責任審判員に5部提出すること。大会2日目以降も同様とする。
- (11) 第1試合のチーム主将は、試合開始予定時刻の45分前に、第2試合以降のチームの主将は前試合4回終了後所定のメンバー表5部を本部席に提出し、同時に審判員立会いのもとで攻守を決定する。
- なお、メンバー表は当面の間審判部より受け取ること。
- (12) 試合予定時刻に不在チームおよび規定の登録書（登録証を含む）未提出チームは不戦敗とする。
- (13) ベンチサイドは、大会組合せ（抽選番号）の若い方を1塁側とする。
- （試合後の手続き）
- (14) 投球確認シートは、1回戦から決勝戦までの大会期間を通して使用する。
- 投球確認シートは審判部で記載し、試合終了後本部席において球場責任役員、球場責任審判員、勝利チーム監督の三者で確認し、捺印またはサインを行う。
- 審判部は初日ダブルヘッダーの試合がある場合は、確認シート3部（審判用、相手チーム用、自チーム用）を作成する。
- 勝利チームは、翌日の試合前に本シート4部（原紙1、複写3）を審判部に提出する。
- 当日の試合が1試合の場合は3部（原紙1、複写2）提出する。
- 審判部は提出された本シート1部メンバー交換時に双方のチームに渡す。
- (15) 試合終了後は、登録関係書類をその球場の大会本部より引き取ること。大会本部は引き取りのない登録関係書類の責任は負わない。
- （試合前の練習、グラウンド整備）
- (16) ノック時間は、7分以内とするが、大会運営の都合により時間を短縮することやノックを行わないで試合を開始することもある。ノック時のボールボーイは危険防止のため、必ずヘルメットを着用する。
- なお、相手チームのフィールドイング中は、全員ベンチ内で待機をすること。ただし、自チーム、対戦チームに関係なく、投手に限りブルペンでの投球練習を認める。捕手は控えの捕手も可とする。
- (17) 試合前、中、後におけるグラウンド整備は「グラウンド整備についての確認事項」に基づいて行う。

(試合中の配慮事項)

- (18) 攻撃側チームは、各イニングの先頭打者、次打者、ベースコーチはミーティングに参加せず、所定の位置につくこと。
- (19) 試合中のブルペンの使用は試合中のチームを優先する。ただし、ブルペンに複数のマウンドがあって、5回終了以降に次試合のバッテリーが、試合中の監督に投球練習を申し出た場合には、試合中のチームと次試合チームの2組の投球練習を認める。
ただし、ブルペン内では投球練習以外のことはできない。ブルペンがグラウンド外にある場合はこの限りではない。
- (20) 攻撃中、守備中を問わず、グラウンドでの選手のウォームアップ（投球練習）は一組に限り認める。

なお、ウォームアップ中はボールの行方に注意し、プレーの妨げにならないよう留意する。

- (21) 試合進行を早めるよう配慮し、攻守交代は全速力で行うこと。
ボールまわしは内野手1回とし、投手への返球は原則としてその守備位置から行う。
なお、試合の進行上4回終了時に、また、天候状況によっては審判員の判断で変更することがある。
- (22) 第2試合以降の試合開始は、原則として前試合終了の35分後とするが、試合進行によってはさらに早める場合がある。その場合はグラウンド整備等を行わないことがある。
- (23) 捕手は、投手に返球したり、野手に声を掛けるために、1球毎にホームプレートの前および横に出ないこと。

(コート類の着用制限、身なり)

- (24) グラウンドに入る選手、監督、コーチは、シートノック開始以降よりウインドブレーカーの着用を禁止する。プレイ中の選手は勿論、ブルペンで練習中の投手、捕手も着用を禁止する。
また、グラウンドに出ている選手はユニフォームの下に着込んでもいけない。ただし、ダッグアウト内および走者となった投手は除くほか、荒天時等の場合は、審判員の判断により許可する。
スパイクの着用はシートノック開始以降からとする。ただし、バッテリーがブルペンで投球練習を行う場合はそれ以前でも認める。
- (25) 選手、監督、コーチ、スコアラーは、不快感を与えるような長髪、ひげ、茶髪は極力控え、清楚な恰好で大会に臨むこと。なおピアスは禁止する。

(ベンチ内留意事項)

- (26) ベンチ内で携帯マイクの使用は禁止する。監督に限りメガホンの使用を認める。
- (27) 相手チームや相手方選手、審判に対する野次等は、ベンチ内選手はもとより、応援者もこれを禁止する。
なお、ベンチ内および応援者のマナーについては、大会役員および責任審判員が監督を経由して注意する。
- (28) 選手、監督、コーチ、スコアラーが、ベンチ内に携帯電話、タブレット端末やパソコン等電子機器を持ち込み、外部と情報交換をすることを禁止する。
- (29) ボールボーイは、内野のみ（登録選手2名）としユニフォームを着用すること。

指導者に対する注意事項

- (1) 監督、主将会議で説明または定められた事項は、チーム全員に徹底させること。
- (2) 監督、コーチは出場選手に対し中学生らしい態度で試合を行うように指導する。
- (3) 試合中選手、監督、コーチ、スコアラーは、特別の理由がない限りみだりにベンチ、またはダッグアウトを離れないこと（試合中の喫煙は禁止）。
- (4) 試合中および練習中に、指導者が選手に対し、暴力や体罰などの行き過ぎた指導があれば、東北連盟規約施行細則第40条に則り厳しい処分を科す。
- (5) いかなる理由があっても、監督は判定を不服として試合中に選手をグラウンドからベンチに引き揚げさせてはならない。公認野球規則7.03(a)を適用する場合もある。
- (6) 監督は、自チームの応援団の行為について責任を持つこと。
- (7) 応援団の用具の使用はメガホンだけとする。ただし、メガホン同士でたたくことや鐘、太鼓、笛やペットボトルなどの鳴り物は禁止する。
また、投手が投球動作を起こすと同時に、歓声を挙げることがあるが、その度合いが過ぎると判断したときは、大会役員または当該審判員が監督を経由して注意を与える。
- (8) 選手、監督、コーチ、スコアラーは、スタンドの応援団とみだりに私語を交わしてはならない。
- (9) 監督、コーチは試合中にサングラスを着用してはならない。

選手に対する注意事項

- (1) 選手は、常にスポーツマンらしいきびきびとした動作でプレイをすること。
- (2) 試合開始時と終了時に両チームは、ホームプレートをはさんで整列し、審判員の指示で礼を交わすこと。
- (3) 試合開始および終了の挨拶の時に、両チーム選手間で奇声を発しないこと。また、本部および相手方ベンチ前に行って挨拶をしないこと。
- (4) 3アウト後、試合球は、投手板付近に置くこと。雨天時は、審判員に手渡すこと。
- (5) 球審からボールを受け取る投手、予備ボールを手渡す選手、およびバッターボックスに入る打者はその都度球審に礼をしなくてもよい。
- (6) ベンチ前でのバットスイングは危険防止のため試合開始前（試合中はルール違反）であっても禁止する。
ただし、試合中は次打者に限りウエーティングサークル内でのスイングは許可する。

特別規則

(規則)

- (1) 東北連盟の主催する大会は、当該年度公認野球規則、大会規程細則および競技に関する諸規定、諸規則を適用する。

(競技場特別ルール)

- (2) 競技場に特別ルールがあるときは、審判員は各試合前に監督立ち会いのもとにこれを告知し、競技にあたらなくてはならない。
- (3) 各大会において球場使用時間制限等がある場合、その当日の最終試合は制限時間まで1時間45分あれば試合を行う場合もある。

(試合成立)

- (4) 各試合は7回戦とし、5回終了をもって正式試合とする。4回終了時10点差、5回以降7点差以上の場合はコールドゲームとする。ただし、決勝戦はコールドゲームを適用しない。

(時間制限と試合成立の関係)

- (5) 試合は2時間制限試合とする。

5回以降は、試合開始から2時間を超えて新しいイニングに入らず、制限時間に達した時点のイニング(表裏)を最終回とする。そのイニングが同点の場合は、以降のイニングはタイブレーク方式を採用する。

決勝戦は2時間制限試合を適用しない。

- ①試合が成立するのは5回終了なので、4回以前に2時間が経過した場合でも5回までは継続して行う。
- ②5回以降、後攻チームがリードしている試合で、後攻チームの攻撃中に2時間に達した場合は、その時点で試合を打ち切り後攻チームの勝利とする。
- ③同じく後攻チームがリードしている試合で、先攻チームの攻撃中に2時間に達し、後攻チームのリードのまま先攻チームの攻撃が終了した場合は、その時点で試合を打ち切り後攻チームの勝利とする。

(中断)

- (6) 2時間の制限時間において、次の場合による中断は試合時間に計測しない。

- ①けが等により、選手の治療に要する時間。
- ②降雨、強風、雷等の荒天(以下「荒天」という)により、試合の続行が不可能な時間。
- ③その他不測の事態により、審判員が必要と認めた時間。

(タイブレーク・決勝戦同点の場合の決定方法)

- (7) 7回終了時同点の場合は、2時間以内であっても延長戦は行わず、タイブレーク方式に入る。タイブレーク方式は、一死満塁で打者は前回正規に打撃を完了した次の打順の打者とする。走者は前項による打者の前の打順の者が一塁走者、その前の打順の者が二塁走者、三塁走者は二塁走者の前の打順の者とする。この場合の代打代走は認められる。

タイブレーク方式は、3イニングまで継続できるが未決着の場合は抽選とする。

抽選は審判員が〇×それぞれ9個のくじを用意し、最終守備、攻撃の18人がくじを引き〇の多かったチームを勝ちとする。

なお、7回を終了し、タイブレーク方式中に荒天等で試合続行が不可能になった場合は、試合を中断し抽選とする。

- (8) 決勝戦は2時間制限試合を適用せず、7回同点の場合は延長戦に入り最長9回まで行う
9回終了時なお同点の場合は、10回からタイブレークに入り勝敗が決着するまで行う。

(特別継続試合)

- (9) 荒天、日没等の理由により試合の続行が不可能となって(4)で定める試合が成立していない場合には、前の試合の回数と経過時間とを引き継ぎ特別継続試合を行う。

なお、特別継続試合の日程等は本部で決定する。

(危険防止措置)

- (10) 打者、走者、ランナーコーチ、ボールボーイは、危険防止のため両耳つきヘルメットを着用する。また、捕手はバイク(急所防具)および捕手用具を着用のこと(投球練習およびブルペンにおいても同様とする)。
- (11) 打者、走者、ランナーコーチ、ボールボーイは、危険防止のため両耳つきヘルメットを着用する。また、捕手はバイク(急所防具)および捕手用具を着用のこと(投球練習およびブルペンにおいても同様とする)。
危険防止のため、ブルペン(投手、捕手)の選手は、試合中の投手が投球動作に入ったらプレイに注目すること(注:全国大会では監視選手をつけなければならない)。
- (12) 次打者もしくは正規の代打者は、自軍のウエーティングサークル内で待ち、試合中の投手が投球動作に入ったら、身の安全のために素振りをやめ、投球、打球をしっかりと見守る。また、守備を妨害する様な行為をとってはならない。

(投手)

- (13) 投手は、投手板に触れている状態で片方の手を下におろし、捕手からのサインを受けなければならない。セットの姿勢でサインを見る場合は、片方の手を下におろして身体の横につけていなければならない。
- (14) 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。

なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の時計をリセットする。

また、このルールは、捕手、打者の行動が影響するので、お互いにスピードアップの精神を尊重すること。

適用の詳細については、一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会の「投手の12秒および20秒ルールの適用に関するガイドライン」に従う。

- (15) 投手の肘、肩の障害を予防するため、投球に関しては、日本中学硬式野球協議会が定める「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」に従う。

(打者)

- (16) バッターが、理由もなくボックスを離れ、球審がそれを遅延行為と判断した場合には、その試合において、2度目までは警告とするが、3度目以降は投球を待たずにストライクを宣告する。この場合はボールデッドとする。

(臨時代走)

- (17) 試合中選手に不慮の事故が起き、審判員が臨時代走（コーティシーランナー）の必要を認めれば許可する。臨時代走者は、事故のあった走者より打順が一つ前位のプレーヤーを選ぶこととし（ただし投手は除く）、代走はその場限りとする。守備側チームによる指名権
- (18) 頭部への死球（ランナー送球時も含む）は、すべてにおいて臨時代走を適用する。

(ラフプレイ)

- (19) 選手の安全を守るため、故意に相手方選手を傷つける様な行為があった場合は、当該審判員の判断により、その選手を退場させることがある。

(ハーフスイング)

- (20) ハーフスイングの裁定については、公認野球規則 8.02 (C)〔原注 2〕を適用する。
- ① 捕手は、打者を指さし口頭で「スイング」「振った」と球審に要請することができる。
 - ② 捕手が一塁や三塁塁審に対して直接指さし、リクエストはできない。
 - ③ また、監督は打者が振ったか否かの確認要請について、ベンチ内から捕手に指示することができる。

(監督の異議および通告)

- (21) 抗議および選手交代の通告は、必ず監督が行う。監督不在の場合は、運営規程に定めた監督代行者が代行する。なお、抗議について以下の規定は公認野球規則による。
- (22) ストライク、ボール、アウト、セーフおよびフェア、ファールボールの裁定に限らず、審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるから監督、コーチ、選手および控えの選手がその裁定に対して異議を唱えることは許されない（公認野球規則 8.02 (a)）。
- (23) 審判員の裁定が規則の適用を誤って下された可能性のあるときには、監督が当該審判員に規則適用の訂正を申し出ることができる（公認野球規則 8.02 (b)）。

(審判員の裁定)

- (24) 控え審判員を含む審判員の合議の裁定は最終判定となる（公認野球規則 8.02 (c)）。
- (25) 審判員は、この規則に明確に規定されていない事項に関して、自己の裁量に基づいて裁定を下す権能が与えられている（公認野球規則 8.02 (c)）。

(監督の指示および野手が投手のもとに集まれる回数制限)

- (26) 監督が 1 試合に投手のもとへ行ける回数を 2 回までとする。
延長回やタイブレーク回に入った場合、監督はそれ以前の回数に関係なく 2 イニングスに 1 回、投手のもとへ行くことができる。
ただし、投手を交代させた場合は回数として数えない。時間は審判がタイムを宣告後 30 秒以内とする。
- (27) 監督が 1 試合に 2 回投手のもとへ行ったら、3 回目に行けばその時の投手は自動的に交代する。
ただし、交代した投手は他のポジションにつくことができる。
- (28) 2 人以上の野手が投手のもとへ行ける回数を 3 回までとする。投手交代の際、監督と共に野手がマウンドに集まることは、回数として数えない。延長回やタイブレーク回に入った場合、野手はそれ以前の回数に関係なく 1 イニング 1 回投手のもとへ行くことができる。
- (29) 攻撃側の監督が打者または走者に指示を与える回数を、1 試合に 3 回までとする。

延長回やタイムブレーク回に入った場合、攻撃側の監督は、それ以前の回数に関係なく2インニングに1回、打者または走者に指示を与えることができる。

時間は審判がタイムを宣告後30秒以内とする。

- (30) 監督は、相手チームのタイム中に打者、走者に指示を与えることができるが、プレイの再開を遅らせた場合は、攻撃側監督のタイム1回と数えられる。

注1. 監督が投手のもとへ行ったかどうかの判断は、ファールラインを越えたか否かを基準とする。

注2. 野手が投手のもとへ行ったかどうかの判断は、各塁を結ぶ線と投手板の中間点を越えたか否かを基準とする。

(マナーアップ、スピードアップ)

- (31) マナーアップ、スピードアップについて

①試合中のマナーアップを図るため、以下の点を順守すること。

ア. 塁上の走者やベースコーチが、守備側のサインを盗み、打者に知らせることは禁止する。

イ. 得点した時、選手のリーダーが音頭を取り、声を揃えて手拍子する行為は自粛する。

ウ. 本塁打を打った選手をベンチから出での出迎えは禁止する。

エ. 捕手が投球を受ける際、ストライクに見せる意図でミットを動かすことを禁止する。

オ. 勝敗が決定したとき等に、必要以上に大騒ぎをすることを慎む。

②試合中のスピードアップを図るため、以下の点を順守すること。

監督の行動

ア. 監督のマウンドへの行き帰りは、小走りでスピーディーな行動をとる。

イ. 複雑なサインによる時間のロスをなくし、速やかにサインを出す。

ウ. 選手交代時はできるだけ交代選手を事前に準備させ明確にかつ簡潔に球審に告げる。

エ. 攻守交替（攻撃）の時、ベンチ前ミーティングは短くし、速やかに選手をベンチに入れる。

選手の行動

ア. バッテリーのサイン交換は速やかに行う。

イ. 投球のインターバルは長くせず、テンポ良く投球し、スピードアップを心がける。

ウ. 捕手のブロックサインは試合進行の妨げになるので禁止する。また、内野手から投手へのサインは簡単にする。

エ. 捕手の防具装着は控え選手が手伝い、速やかに守備につく。

オ. 投球がワンバウンドした時、不必要に毎回球審にボール交換を要求しない。

カ. スパイクシューズのひもの結び直してタイムを取らない様に事前に確認する。

キ. タイムでマウンドに集まった後、駆け足で守備位置に戻る。

ク. 準備投球は8球以内かつ1分以内とする。

グラウンド整備についての確認事項

※雨天時およびグラウンド状態が悪い場合は、大会役員・責任審判員の指示を仰ぐこと。

※球場を管理・整備している球場管理者がいる場合は、球場整備のすべてを球場管理者に委ねること。

※ラインの整備は当面の間審判部が行う。

1. 第1試合に対戦するチームのグラウンド整備について

(1) 試合開始前の整備

①整備は両チームで行う。ただし、第1試合の試合開始前の整備に限り、両チームの関係者の補助を認める。

②グラウンド整備は第1試合開始時間の45分前までに終了する。

(2) シートノック後のグラウンド整備について

①整備は両チームで行う。

②ライン整備はホームベース付近とするが、1塁・3塁までのラインが消えている場合は整備する。

(3) 4回終了後の整備について

①整備は両チームで行うが、大会役員・責任審判員の指示による。

②ライン整備はホームベース付近とする。

(4) 終了後の整備について

①試合進行やグラウンドの状態等を考慮して判断する。

2. 第2試合・第3試合に対戦するチームのグラウンド整備について

(1) 試合開始前の整備は行わない。

(2) シートノック以降のグラウンド整備は第1試合に準ずる。

(3) ただし、当日の最終試合の両チームは、グラウンドの整備、ベンチ内の清掃を行う。

(4) 最終試合の両チームは整備完了後に大会役員または責任審判員の指示によって解散する。

3. 大会役員または責任審判員は、球場管理者がいる球場では最終試合の整備完了後に点検を受ける。

没収試合を避けるためのメンバー表誤記の取り扱いについて

メンバー表の誤記に関する事例の取り扱いを次の通りとする。

注：登録選手とは、当該大会に選手登録された選手をいう。

ケース1：試合前のメンバー表交換時点で大会本部の登録原簿照合により、誤記に気付いた場合。

〔処置〕 出場選手、控え選手を問わず、氏名、背番号の誤記を発見した場合、注意を与えて書き改めさせ、罰則は適用しない。

登録原簿以外の選手が記載されていても同様の取り扱いとする。

ケース2：メンバー表交換終了後、試合開始までに誤記が判明した場合。

〔処置〕 誤記に関する訂正は認められない。登録原簿通り記載された選手しか出場資格はないが、チーム全体の没収試合とはしない。

ケース3：試合中に誤記が判明した場合。

る。

〔処置1〕 登録選手間の背番号の付け間違いは、判明した時点で正しく改めさせ、罰則は適用しない。

〔処置2〕 登録外選手が判明したときは、実際に試合に出場する前であれば、その選手の出場を差し止め、ベンチから退去させ、チーム全体の没収試合としない。

注：実際に試合に出場する前とは、プレイが宣告されるまでをいう（例えば、代打などの通告を本部で原簿照合して判明したときや、選手交代の放送後に判明したが、プレイの宣告前であったなど）。

〔処置3〕 登録外選手が試合に出場、これがプレイ後判明したときは、大会規定により試合中であれば没収試合とし、試合後であればそのチームの勝利を取り消し、相手チームに勝利を与える。

投手の12秒及び20秒ルールの適用に関するガイドライン

一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会

2015年シーズンから採用する投手に関する「12秒及び20秒ルール」の適用に関するガイドラインを以下に示す。

1. 12秒及び20秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合には20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発する事とし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の時計をリセットする。（社会人及び大学における試合のスピードアップに関する特別規則2参照）

2. 計時

計時は2塁塁審が行う。

3. 12秒ルールの適用

①走者がいない場合に適用する。

②12秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッターボックスに入って投手に面した時に始まり、ボールが投手の手から離れた時に終わる。

※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整った時に計時を始める。

③12秒を経過したとき（13秒になったとき）、2塁塁審はタイムを宣告し、球審に12秒が経過したことを知らせる。

※2塁塁審のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる

※タイムの宣告にも関わらず投手が投球したり、その投球を打者が打ったとしてもそれは無効となる。

④2塁塁審の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。その際、球審は投手及び守備側の監督に12秒ルールを適用したことを告げる。

4. 20秒ルールの適用

①走者がいる場合に適用する。

②20秒の計時は、次のときに始まりいずれの場合も投手の手から離れたときに終わる。

A) イニングが始まる時やボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。

B) ボールインプレイの状態、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッターボックスに入って投手に面したとき。

※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。

C) ボールインプレイの状態、打者がバッターボックス内で打撃を継続しているとき

③1度目・2度目に20秒を経過したとき（21秒になったとき）2塁塁審はタイムを宣告し、球審、投手及び守備側の監督に20秒が経過したことおよびその回数を知らせる。

④3度目に20秒を経過したとき（21秒になったとき）、2塁塁審と球審は、走者がいない時と同様の処置をする。

⑤投手が塁に牽制球を送球したときは、20秒の時計をリセットする。

※投手板をはずしただけのときや偽投の時は、計時を継続する。

中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン

1. 試合での登板は以下のとおり制限する。
1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。また、1日複数試合に登板した投手、連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）及び3日間連続で登板した投手は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできないものとする。ただし、イニングの端数（1/3または2/3）は1イニングとみなす。
2. 練習での全力投球は以下のとおり制限する。
1日70球以内、週350球以内とする。また、週に1日以上、全力による投球練習をしない日を設けること

中学生選手の障害予防のための指導者の義務

1. 複数の投手と捕手を育成すること。
指導者は、特に投手と捕手に投球障害が発症していることを認識し、複数の投手と捕手の育成に努めること。
2. 選手の投球時の肩や腕の痛み（自覚症状）と動き（フォーム）に注意をはらうこと。
選手は、投球時の痛みをカバーするために投球フォームを変えたり、スナップをきかせるなどスムーズな動きが失われることがあるので、指導者は注意を払う必要がある。
3. 選手の故障歴を把握し、腕や肩に痛み（自覚症状）がある選手には適切な治療を受けさせること。また、ウォームアップとクールダウンに対する選手自身の意識を高めること。
野球における肩や腕の障害は、将来重度の後遺症を引き起こす可能性があることを、指導者は強く認識すべきであり、また、チーム内には、選手自身が障害予防に努めることができる環境作りが必要である。
4. 選手の体力作りに努めること。
発育期の体は、大人とは全く違うものであるとの認識が必要であり、体力レベルによって練習メニューを変えるべきである。
5. 運動障害に対する指導者自身の知識をたかめること。
専門医や医療関係者からの提言等に関する情報収集に努め、その内容は真摯に受け止めて、指導の中に実践すべきである。

日本中学硬式野球協議会

「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」適用例

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	第七日目	第八日目	第九日目	第十日目	
投手A	7	3	休	4	1	7	休	0	7	0	二日目は上限3イニングまで。三日目と七日目は投手・捕手として出場できない。
投手B	2	3	2	休	3	3	休	3	2	0	一日目から3日間連続で登板したので四日目は投手・捕手として出場できない。五日目と六日目の合計が5イニングを超えたため、七日目は投手・捕手として出場できない。
投手C	3	3	休	1	1	1	休	3	3	休	一と二、八と九の合計は、いずれも5イニングを超えている。また、四から3日間連続登板している。従って、三日目、七日目、十日目は投手・捕手として出場できない。
投手D	7	0	0	$\frac{2}{2}$	休	5	5	休	4	0	二、三日目は登板なし。四日目にダブルヘッターで両試合に登板したため、五日目は投手・捕手として出場できない。
投手E	0	$\frac{3}{0}$	$\frac{0}{2}$	1	休	5	5	休	0	2	二、三日目、チームがダブルヘッターの試合であったが、片方の試合のみ登板のため、翌日の制限はなし。五日目は二から四まで3日間連続登板のため、投手・捕手として登板できない。八日目は前2日間の合計が5イニングを超えているので投手・捕手として出場できない。
投手F	2	$\frac{3}{4}$	休	7	$\frac{3}{休}$	休	3	2	1	休	第五日目は第一試合で前日との合計が10イニングに達したため、ダブルヘッターの第二試合及び翌日のダブルヘッターには投手・捕手として出場できない。

野球用具の使用規程

一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会（以下「本協会」という。）が公認するメーカーが販売する用具を使用する原則、購入時の用具を使用する。ものとし、改造したものの使用を禁止する。

(1) 対象

本協会、所属連盟、支部、ブロックが主催する各種大会に出場するすべての参加者の用具に適用する。

(2) 規格外の扱い

協議が必要となる事案が生じたときは、本協会、連盟で協議し決める。

(3) ヘルメットに関して

- ①チーム統一のものでSGマーク（製品安全協会）の認証がある製品に限り使用を認める。
- ②ひび割れ、保護ラバーに損傷のあるヘルメットの使用を禁止する。投球、送球、打球を受けた場合は、ひび割れや損傷があるかどうかただちに確認する。
- ③チーム名、頭文字の表示は、いずれかを前頭部の1か所とする。側頭部の表示は禁止する。番号表示は側頭部、後頭部でも差支えない。
- ④色は単色で黒、白、赤、紺とする。表面がつや消し処理された製品の使用も認める。

(4) ユニフォームに関して

- ①チーム名、都道府県名または地名を胸や袖口に表示すること。くわえて自治体が公に認めている象徴等を胸や袖口に付けることを認める。
- ②喪章はピン止めを認めず、縫い止めにする。
- ③生地廃番による素材の違い（同一カラー）の混在は認める。ただし移行期間は3年とする。
- ④ツートンカラーは可とする。
- ⑤ツートンカラーの解釈は、上着とズボンのことであるが、上下異なる色のユニフォームで背番号等を付ける刺繍色および肩、袖、脇に別色のラインや幅をもったライン（切り替えしも可：デザイン上はV字型）が入っているものは認める。この場合は、上下3色になる。
- ⑥公認メーカーの販売品と著しく違うオーダー品等を新たに作る場合は、事前にサンプルの写真かデザイン画等を連盟事務局に提出し規定の範囲内かどうかの判断を仰ぐこと。
- ⑦裾を極端に絞った変形ズボンは使用できない。ズボンの裾は足首まで下げてはならない。場合は、国内でもユニフォームへの表示を義務付けることができる。
- ⑧同一チームの監督、コーチ、選手は同色、同形、同意匠のユニホームを着用し、そのユニフォームには6インチ（15.24釐）以上の大きさの背番号を付けなければならない。
- ⑨外国遠征時のユニフォームへ協賛企業の社名などの表示を認める。本協会が必要と業認めた場合は、国内でもユニフォームへの表示を義務付けることができる。

(5) 帽子、アンダーシャツ、ストッキング、アンダーソックスに関して

- ①各チーム同一、同色とする。生地廃番による素材違い（同一カラー）は認めるが、移行期間は3年とする。
- ②ストッキングのミドルカット、ローカット、ボックスの使用は認めるが、ハイカットの使用は禁止する。

(6) ベルトに関して

ユニフォームの一部とし、同一チームのプレイヤーは同色のベルトを着用しなければならない。色についてはチーム全体が同色であれば特に定めない。

(7) スパイクおよび球場内で使用するシューズに関して

- ①スパイクおよび球場内で使用するシューズの色は黒または白と別色のラインを認めるが、チームで統一すること（監督、コーチを含む）。
- ②廃番による素材違いの混在は認めるが、移行期間は3年とする。
- ③足首防護目的のハイカットスパイク、ミドルカットスパイクの使用は認める。
- ④スパイクは金具のものを使用する。ただし、人工芝球場ではポイントスパイクの使用を認める。

(8) バットに関して

- ①金属製バットはSGマークが入った硬式用に限る。
- ②SGマークが入ったコンポジット（複合）バットの使用は認める。
- ③木製バットの使用は認める（色は黒、淡黄色系、ダークブラウン系とする。木目が見える程度の濃さとする）。
- ④マスコットバットは試合で使用できない。試合中はダグアウトに持ち込めない。バットリング、鉄棒類の球場への持ち込みを禁止する。

(9) グラブ、ミットに関して

- ①際立った色（真っ赤、白等）の使用は認めない。
- ②しめ紐は長すぎないこと。長さは親指程度にする。

(10) 捕手用具に関して

- ①プロテクターの表面にチーム名の表示は認める。
- ②プロテクターの色は3色まで併用を認める。
- ③ヘルメットとマスクの一体型の捕手マスクの使用を認める。

(11) コート類に関して

コート類の着用においてはグラウンドコート、ウインドブレーカー、Vジャン、フリースなどタイプの違う商品（それぞれのタイプは同一デザインに限る）の混在は認める。

(12) トレーニングシューズに関して

可能な限りチーム同一、同色とする。

(13) 手袋に関して

- ①色は黒、白、紺もしくは赤をベースに2色までのものとする。
- ②守備時、野手の手袋の使用を認める。
- ③出塁時に一回り大きいサイズの走塁用の手袋使用は認めない。

(14) リストバンド・リストガード等に関して

- ①リストバンド・リストガードや保護ガードの使用を認める。
- ②色は黒、白、紺もしくは赤色をベースに2色までのものとする。

(15) レッグガード、エルボーガードに関して

- ①レッグガード、エルボーガードの使用は認める。
- ②色は黒、紺、白のいずれか1色で統一する。

(16) サングラスの着用に関して

- ①必要に応じて審判に申し出れば、選手のサングラス着用を認める（プラスチック製とする）。
- ②眼下へのアイブラック貼り付け、墨などを塗ることは禁止する

(17) 保護ガードに関して

手首、足首をねんざした選手に限りテーピングと同じ効果が得られる保護ガードは、事前に審判員に申し出れば、使用を認める。

(18) マウスガード（マウスピース）に関して

白または透明なものに限り使用を認める。

(19) 用具の公認について

- ①メーカー毎の公認とする。
- ②従来の用具別公認を廃止する。

(20) その他

その他用具を本規程以外で試合に使用する場合は、事前に大会本部に申し出ること。

附 則

この規程は、平成18年 1月21日から施行する。

改正 平成28年12月 7日

改正 平成28年 2月 7日